

顧客名

温室効果ガス排出量 検証所見報告書

Report No.XXXX

Revision No.00

温室効果ガス排出量検証所見報告書

初回発行日:		
検証組織名:		
顧客名		
概要 これは、「事業者からの温室効果ガス排出量検証ガイドライン」及び「温室効果ガス排出量検証チェックリスト」に基づいて検証された結果に使用する報告書のテンプレートであり、このように斜字で記述されているのはガイドラインです。 概要には以下を含むのが望ましい。 - 検証の目的及び範囲 - 事業者の主要な活動及び排出源に関する簡単な記述 - 検証方法及び検証基準についての記述 - 検証に関する制約と不確実性（算定基準に基づく項目を含む） - 検証された温室効果ガス排出量を含む、検証の結果 - 未解決の課題がある場合には、それに関する記述 - 検証チームの結論及び検証機関決定までの手続き		
報告書 No.:		
		備考
報告書名:		
検証人:		
承認者:		
最新改訂日:	改訂 No.:	総頁数:

☐ 許可なく配布することを禁ずる。

用語の定義

報告書中で使用される用語を説明すること。

換算係数と定義

報告書中で使用される換算係数を説明し、特殊な専門用語を定義すること。

目次 ページ

1	検証目的、範囲及びGHG算定基準	
1.1	目的	
1.2	検証範囲（契約に基づく）及びGHG算定基準	
1.2.1	全体	
1.2.2	サイトの詳細	
2	検証計画	
2.1	検証チームの選定	
2.1.1	検証チームの構成、必要な能力	
2.1.2	事業者による検証チームの承認	
2.2	事前検討	
2.2.1	リスクアプローチ	
2.2.2	現地調査対象サイトの決定	
3.	検証作業の実施	
3.1	検証作業の開始	
3.2	情報の収集	
3.2.1	現地調査による情報収集（訪問したサイトごとに記載）	
3.2.2	現地調査をしないサイトの情報収集	
3.3	情報の評価	
3.4	発見事実（評価を行って妥当であると判断された情報）と事実の確認	
3.5	指摘事項と対応（最終算定報告書への反映）	
4.	検証チームの結論	
5	参考文献	

付属書 1：検証チェックリスト

1 検証目的、範囲並びにGHG算定基準

1.1 目的

1.2 検証範囲（契約に基づく）並びにGHG算定基準

1.2.1 全体

- ・ 事業者名、代表責任者名
- ・ 住所
- ・ 事業者の概要
 - ① 事業活動の概要（プロセス、製品、サービス、オペレーション）
 - ② 事業者の組織的及び法的体制に関する情報
 - ③ 業界、GHGs 報告環境に関する情報
- ・ 事業者の役割と責任（秘密保持含む）
- ・ 検証機関の役割と責任（独立性、秘密保持含む）
- ・ 検証範囲
 - ① 時間的範囲（算定対象期間）
 - ② 文書的范围（検証が準拠する文書、事業者が使用した算定基準及びレビューの対象文書（算定報告書含む））
 - ③ 組織的範囲
 - ④ 地理的範囲
- ・ 削減目標（総量設定方式、原単位規定方式、削減量規定方式）
- ・ 算定対象期間内の組織的範囲、地理的範囲の変化
- ・ 対象活動、活動の区分並びに活動量の表示方法
- ・ 対象 GHGs
- ・ 契約時に受領した算定報告書に記載されている排出量
- ・ オペレーションの内容と複雑性
- ・ GHGデータのモニタリング、集計、報告の方法、手順並びに役割、責任、権限
- ・ GHGデータの計算に必要な入力データの信頼性と十分性（モニタリング装置、モニタリング方法、校正を含む）
- ・ GHGデータのQA/QCプロセス並びにその他の保証プロセス（内部監査、外部監査等）
- ・ GHG排出源と排出インベントリー

1.2.2 サイトの詳細

現地調査有無に拘わらず対象となるサイト（本社含む）全てについて記載

- ・ サイト名及び責任者名
- ・ 住所
- ・ サイトが位置する地域の特徴
- ・ 事業者の概要
 - ① 事業活動の概要（プロセス、製品、サービス、オペレーション）

- ② 事業者の組織的及び法的体制に関する情報
- ③ 業界、GHG s 報告環境に関する情報
- ・ 検証範囲
 - ① 時間的範囲（算定対象期間）
 - ② 文書的范围（検証が準拠する文書、レビューの対象文書（算定報告書含む））
 - ③ 組織的范围
 - ④ 地理的范围
- ・ 削減目標（総量設定方式、原単位規定方式、削減量規定方式）
- ・ 算定対象期間内の組織的范围、地理的范围の変化
- ・ 対象活動、活動の区分並びに活動量の表示方法
- ・ 対象 GHG s
- ・ 契約時に受領した算定報告書に記載されている排出量
- ・ オペレーションの内容と複雑性
- ・ GHG データのモニタリング、集計、報告の方法、手順並びに役割、責任、権限
- ・ GHG データの計算に必要な入力データの信頼性と十分性（モニタリング装置、モニタリング方法、校正を含む）
- ・ GHG データの QA/QC プロセス並びにその他の保証プロセス（内部監査、外部監査等）
- ・ GHG 排出源と排出インベントリー

2 検証計画

2.1 検証チームの選定

2.1.1 検証チームの構成、必要な能力

- ・ チームに必要な能力（専門分野等）
- ・ 主任検証人：検証チームリーダー名、検証機関名、役割
- ・ 検証人：検証人名、検証機関名、役割
- ・ 専門家：専門家名、所属機関名、専門能力、役割

2.1.2 事業者による検証チームの承認

2.2 事前検討

2.2.1 リスクアプローチ

監査リスクを合理的に低く抑えるためのアプローチ

監査リスク＝固有リスク×統制リスク×発見リスク

- ① 固有リスク
- ② 統制リスク
- ③ 発見リスク（現地訪問する対象サイトの数等に関係する）
- ④ 監査リスク

2.2.2 現地調査対象サイトの決定

3 検証作業の実施

3.1 検証作業の開始

- ① 実施日
- ② 出席者
- ③ 結果の要約

3.2 情報の収集

3.2.1 現地調査による情報収集（訪問したサイトごとに記載）

- ・ 観察証拠
- ・ 文書並びに記録
- ・ インタビュー

3.2.2 現地調査をしないサイトの情報収集

3.3 情報の評価

収集した情報に対し、検証の目的に照らして、正確性、信頼性、十全性及び適切性について妥当性評価

- ・ 要求事項に対する評価
- ・ 内部統制の評価
- ・ GHG管理システムの評価
- ・ GHGデータの評価（重要性及び不確実性に対する評価）

3.4 発見事実（評価を行って妥当であると判断された情報）と事実の確認

3.5 指摘事項と対応（最終算定報告書への反映）

4 検証チームの結論

- ・ 当初の算定報告書と最終算定報告書との差を含め、重要性のリスクを除去するために、どのように指摘事項に対応したか。
- ・ その結果、算定報告書が、予め合意された目的、検証範囲及び算定基準に基づいてどの意見形成区分に該当するか。
- ・ 検証チームの結論の限界（検証機関決定に関連して）

5 参考文献

事業者から提供された資料・書類をリストアップすること。例えば、算定報告書、モニタリング計画、初回検証報告書(該当する場合)、マネジメントマニュアルやオペレーションライセンスなど。

- /1/
- /2/
- /3/
- /4/